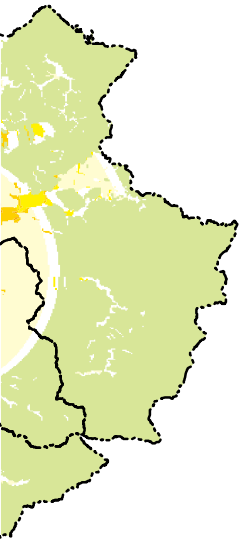
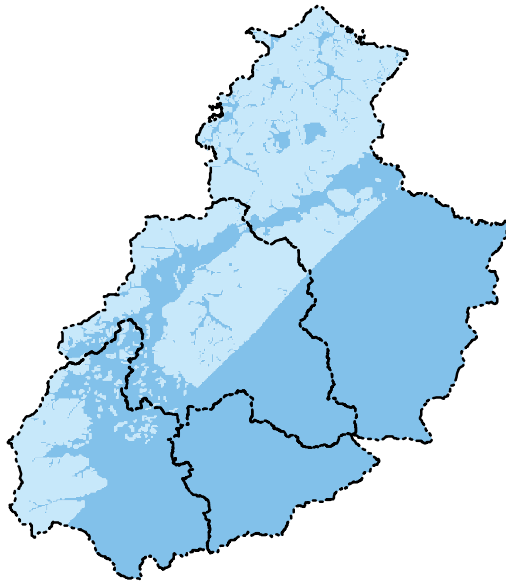


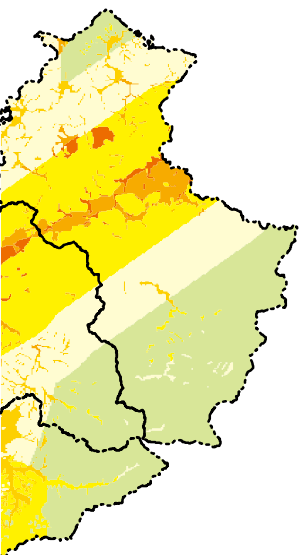
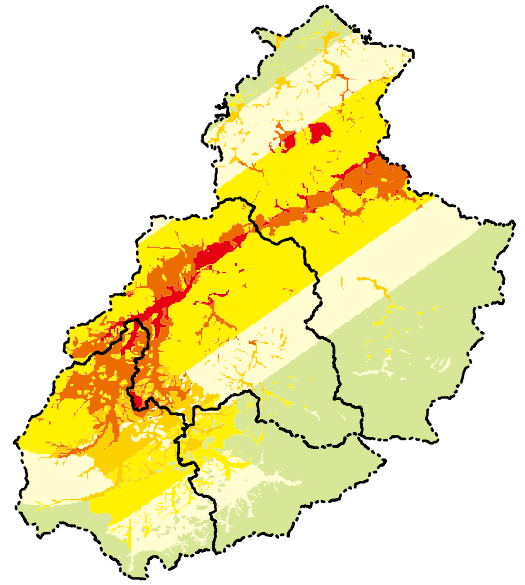
### 層地震



### 東南海・南海地震



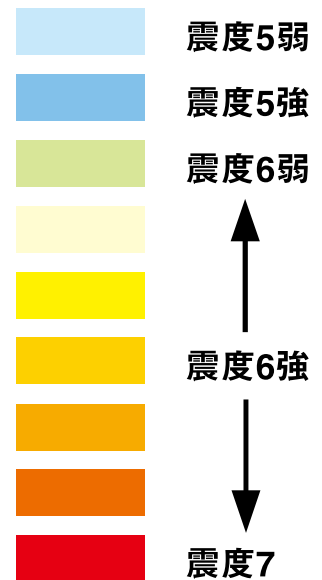
### 市内直下型地震



4地震重ね合わせ

揺れやすさマップは、内陸型地震である奈良盆地東縁断層帯地震と名張断層地震、海溝型地震である東南海・南海地震（同時発生）、未知の断層が市内に存在すると仮定した市内直下型地震の4地震を想定し、各地震の震度推計を重ね合わせ、各メッシュ(50m×50mの網目)毎に最大の震度をとって作成しています。

### 震度階級



### 揺れやすさマップ

揺れやすさマップは、地震発生時に建築物が全壊する割合を予測し、色別に表示したマップです。建築物発生時に予想される震度と建築年別・構造別の建築物データを用いて、揺れの強さと被害率を予測しています。

条件によって、マップに表示される被害と同じ被害が生じるとは限りません。また、個々の建物によって、全壊率が低い地域でも、建築物に被害が生じる恐れがあります。また、地域によっては、建物の新築や増築をする場合、地盤の性質をよく調査し、耐震性の高い建物を造る

建物については、耐震診断を行い、必要に応じて補強するなどの対策を講じることが必要です。